

市内で観察できる動植物（西蔵王）



フシグロセンノウ

＜ナデシコ科＞

太平洋側に多いナデシコ科の植物で、以前から西蔵王は多く、芸工大裏の悠創の丘から瀧山中腹までの広い範囲に自生します。山形県内では西蔵王地区と村山市楯岡で確認されているだけで、珍しい植物の一つです。

（花期8月～9月）



ミヤマウグイスカグラ

＜スイカズラ科＞

この植物も太平洋要素植物で県内では、西蔵王地区にだけ自生します。ミヤマウグイスカズラと覚えている人が多いようですが、鶯の踊り遊ぶ場所で、鶯神楽ですので、ミヤマウグイスカグラが正しい名前です。

（花期5月）



アキノギンリョウソウ

＜イチヤクソウ科＞

近い仲間のギンリョウソウによく似ていて秋に姿を見せるため、アキノギンリョウソウの名前があります。イチヤクソウ科の植物で葉緑素を持たず、ナラタケ菌などに寄生して養分をもらって生活します。

（花期8月～10月）



ホザキヤドリギ

＜ヤドリギ科＞

山地帯のコナラを中心とした雑木に寄生するヤドリギ科の植物で、県内では村山地方以外では確認されていません。県ランク絶滅危惧ⅠA類で絶滅が心配されています。落葉性なので、見つけるのが大変です。

（花期8月 果期10月～2月）

（山形県版絶滅危惧ⅠA類）



ムモンアカシジミ
＜シジミチョウ科＞

成虫は鮮やかなオレンジ色のハネをしており、7月下旬頃から発生します。特殊な生態をしており、幼虫はアブラムシを食べて育ちます。また体からアリの大好きな匂いを出して、天敵から身を守ってもらっています。
(出現時期：7月下旬)



ミヤマクワガタ
＜クワガタムシ科＞

子どもたちに一番人気で、山形市に生息するクワガタの中では最大の種です。7月頃より出現し、西藏王地区のようなやや標高の高い地に多く生息しています。ナラ類の樹液に好んで集まり、灯火にも飛んできます。
(出現時期：7月)



「山形の自然」より

カモシカ
＜ウシ科＞

里山から高山までの森林で普通に見られ、多くは1～2頭で生活しています。食べ物は植物だけで、樹木の葉が主な栄養源ですが、農作物や果実などを食害することもあります。国の天然記念物で、山形県の県獣です。



「山形の自然」より

ニホンザル
＜オナガザル科＞

普通は群れで目撃されることが多く、まれに1、2頭の離れザルを見ることがあります。山形市では奥羽山系の低山帯の森林が群れの主な遊動域ですが、しばしば農耕地にも出没して農作物に被害を与えることがあります。



「山形の自然」より

ハクビシン

＜ジャコウネコ科＞

一見タヌキやイタチに似ていますがジャコウネコ科の動物で、外来種とみられています。近年内陸盆地の低山帯や集落周辺で分布域を広げ個体数を増やして定着しています。畑作物や果実類を食害することがあります。



「山形の自然」より

シュレーゲルアオガエル

＜アカガエル科＞

泡に包まれている卵塊を、水田の畦の草の間や池の沼の岸の草の間などに産み付けます。本市周辺の山地帯でみられ、体色変化の能力が高く、体全体が褐色になったりすることもあります。黒色や暗褐色の斑紋はできません。



「山形の自然」より

マムシ

＜クサリヘビ科＞

毒蛇として名高いですが、性質は大人しく、積極的にむかってくることはありません。背面は銭型斑紋が特徴です。体色は変化に富み、色で「アカマムシ」とか「クロマムシ」と呼んでいます。幼蛇の尾の先端は橙色をしています。



写真提供: 築川堅

サンコウチョウ

＜サカサギヒタキ科＞

オスメスともにくちばしとアイリングはコバルト色で、オスの尾は長く黒色をしています。「ツキ、ヒ、ホシ」と鳴くので「月、日、星」と聞きなし、三光鳥という名の由来になっています。低い山の薄暗い森林で繁殖します。主に昆虫を食します。



「山形の自然」より

ウソ

＜アトリ科＞

オスはほおとのどは赤色ですがメスは赤くありません。亜高山帯の針葉樹林で繁殖します。「フィーフィー」と口笛のような柔らかな調子で鳴き、冬は木の実のほか、木の芽や花芽を食べるため、害を及ぼすこともあります。

(漂鳥)



写真提供: 築川堅

イカル

＜アトリ科＞

太くて大きなくちばしが目立ちます。オスメスは同色です。低い山地や平地の落葉広葉樹林で繁殖し、冬は暖かい地方に移動します。「キーコーキー」とよく通る声でさえずり、地鳴きは「キョッキョッフ」と鋭い声です。ヌルデの実などを食べます。